

二 部 地 区 活 性 化 だ よ り

野上川の風

発 行
二部地区活性化推進機構

編 集
総 務 部 会

事 務 局

〒689-4233
西伯郡伯耆町二部1562-1
二 部 公 民 館 内
TEL・FAX 0859-62-7159



健康ウォーキング

西村 康平（福岡）

五月三十一日（日）、健康ウォーキングin鵜の池を開催し、二十九名という多くの方に参加していただきました。また、最近のイベントとしては珍しく小学生と保育園児が多く参加してくれました。

会場の鵜の池ですが、日野町と伯耆町の町境付近に位置し、周囲約二三kmの池です。奥日野原立自然公園に指定され、年中豊かな自然を楽しめる場所になっています。特に冬になると、鳥取県の県鳥に指定されているオシドリが飛来し野鳥愛好家を楽しませてくれます。

そんな自然あふれる鵜の池で、新緑に包まれながらの半日を過ごしました。

家族や友達グループなどが、それぞれのペースで鵜の池を一周しました。木の実を見つけたり大きな葉っぱで遊んだり、池周辺にある神社などを見学しながらのウォーキングとなりました。

一周した後は、お楽しみの食事会です。天ぷら鍋を囲みながら、揚げたての天ぷらを楽しみました。メニューの中に梅干しの天ぷらもありましたが、案外と美味しかったです。皆さんもご家庭で試されてはどうでしょうか。

四時間くらいではありませんでしたが、色々な世代の人たちが集まり、食卓を囲むことができたイベントでした。ウォーキングよりも食事会のほうがメインであった気もしますが、今後も多くの人たちが集えるイベントを開催したいと思いました。

余談ですが、外来魚であるブラックバスを釣り上げ天ぷらにしようと、子どもたちと糸を垂らしたのですが、賞味期限切れのちくわでは全くヒットしませんでした。釣りが趣味の人に参加していただき、釣り教室を開催してもらいたいものです。

歴史講演会を聞いて膨らむ私の夢

仲田 稜子（二部）

「新鳥取県史 資料編 近世二・三
西伯耆 上・下」が平成二十七年春に刊行され、その中に日野郡二部宿・足羽家古文書約千点のうち三十二点が掲載されました。

その内容については、鳥取県立公文書館県史編さん室の渡邊仁美さんを講師に迎え、六月十一日、二部公民館で開催された「二部地区歴史講演会」において、

一、大庄屋

二、本陣

三、鉄山

四、家

に分けて、分かり易く説明していただきました。

昨年春から出雲街道に係る取り組みとして、ガイドの為の勉強をさせて頂いており、足羽家の事はもともと知りたいと思っていましたので、興味深く聞かせて頂きました。

元禄六年足羽家が類火にあい、松江藩家老から火事見舞いを受けた事とか、十代目太兵衛が「月毛隠岐馬」を松江藩に差し出すとか、松江藩との関係の深さがうかがえて、今後の活動の役に立つのではないかと思います。

余談ですが、今から四百数十年前、永禄か天正の頃、遠い越前から落ちのびて二部にやって来た、初代足羽将監重成から平成二十三年に亡くなられた十七代喜代子さんまでの足羽家興亡のお話を題材に、松本薫さんに書いてもらいたいなと夢見ています。

私だけでしょか・・・？



「特定外来生物」とは

山根 宏子（福吉）

環境省が指定した「特定外来生物法」という法律があります。

もともと日本に生存していた生物と競合して生態系を損ねたり、人の生命、身体、農林水産業に被害を与えることを防止するために定められた法律です。したがって植物だけでなく哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、クモ形類、軟体動物類、変形類などに及びます。

今回抜き取り作業をしたキク科の『オオキンケイギク（大ネギ菊）』は繁殖力がすごく、身近にあり日本人が生活と共に慣れ親しんできた植物を絶滅させる恐れがあるというものです。畑地などに入ると抜き取るのに労力がかかります。刈払機では根は残り、種が飛ばされることによりどんどん増えていきます。

調べていたら「特定外来生物」に指定されている植物の中には蝶や蜂を呼び寄せるものがあると書いてありました。結実するのに昆虫に頼っている在来植物（野菜も含めて）に集まる昆虫が少なくなり農業にも影響するということなんだろうかなと思いました。



植物では他に何種があります。数年前に家の前の川の縁で見つけたゴマノハグサ科の『オオカワヂシャ（大川ヂシャ）』もその一つです。「オオイヌノフグリ」に似た薄紫の小さな花を沢山付けます。その後見つけたら抜き取るようにしています。他にキク科の『オオハシゴソウ（大反魂草）』（通称ルドベキア）というのもあります。比較的寒い地方では林縁などに大群落が見られ、時にブナの森にも繁殖して貴重な湿地の植物に影響を与えているのだそうです。

観賞用にワイルドフラワーとして種や苗を輸入、販売し、高速道路等の側面に景観植物として植え付け、被害があると規制して抜き取りをする。

いたちごっこのような気もしますが…

おもてなし弁当が 地域の未来を開く

澤田恭輔（三部二区）

わが国の、経済は停滞し失われた二十年ともいわれています。今は、停滞した経済を立て直すため金融政策とモノづくりで経済復興を果たそうとしていますが、世界を見渡すと北欧の国スウェーデンも経済の停滞を経験しそれを機に工業社会から知識社会へ転換を遂げようとしています。次にくる知識社会は、知識と情報を最も重視し人間を大切にする社会です。わが国も知識社会に向かってハンドルを切ることに間違いありません。物の豊かさだけを追い求める社会から人と人とのつながりを大切にする社会に変えていかなければなりません。

福祉ボランティア部会は、孤立しがちな一人暮らしの高齢者に弁当を配り、年末にプレゼントを行うのは、顔と顔とのつながり作りを継続したいからです。本当の幸福は家族や共同体的きずなから生まれるものであり、今の時代は、所有欲求がほぼ満たされ次の存在欲求を求めはじめる時代です。物の豊かさから満足を求める時代へ、新しい時代が始まるうとしています。



「だんだんプロジェクト」始動

車 浩一（福岡）

この『だんだんプロジェクト（略称…だんプロ）』は今年の四月二十七日に立ち上がった、ほんとに始まって間もない団体です。立ち上げる直接的なきっかけとなったのは、小学校の統合問題でした。少子化過疎化のため子供の減少している中、溝口・日光二部の各小学校を統合してはという準備協議会に保護者の代表として参加した六名が中心となって立ち上げたのです。そこには、統合に反対をしてきた立場からの責任というものも少なからずありました。そもそも統合に反対した大きな理由は、統合では今ある少子化過疎化という問題がクリアできないからです。それをクリアできない限り、いくら統合をしても同じことの繰り返しになります。事実、現在のゼロ歳児の人数は、溝口・日光二部を合わせても二十名程度しかいません。このまま少子化過疎化が解決しなければ、いずれ岸本エリアの小学校との統合という話になり、さらには『学校の人数が減ったら統合しよう』という理論では、いずれ米子市や大山町、または南部町の小学校との統合！という流れにならざるを得ません。

一方で、それでは子供たちの教育が地域のために犠牲になるのでは？という声もあります。確かに、少人数の環境では（特に複式学級）十分な教育を受けさせてあげられないのではという不安を持たれるのは当然かもしれません。（私自身は学級人数と学力・人間力はあまり関係がないと思っていますが。）

そこで、

- ・学校を残せる今の段階で、なんとか地域の課題をクリアしよう！
- ・心配を抱えていらつしやる保護者の方の不安を解消するため、さらには「二部の環境っていいよね！うちの子供も預けてみようか？」「こんなところで暮らしてみたいから移住してみようかな？」という方がひとりでも増えるような教育環境を整えてみよう！

といったことをみんなで楽しく本気で考えてみない？という組織です。

上記の目的を達成するために、～自慢でつながる地域の輪～というスローガンの下、住んでいる人が自慢できるような地域にしよう、または本来ある自慢できることを再認識しようと考えています。

たまたま地方創生という流れと二緒になってしまいましたが、地方創生にしても地域おこしにしても、実際に住んでいる私たちみんながその気にならないと何も変わりません。「行政に任せとけば」では変わらないのです。

二部地区においても既にいくつかの地域活性のための団体があります。そのどこで地域のために活動されてもいいと思います。私たちも地域のために何かしたいという方々の想いを受け止められる組織のひとつになればと思っています。

地域の未来をワクワクしながら議論し実行できる場でありたいと思って活動していますので、こんなことしたら楽しいんじゃないかという思いを持っていらつしやる方、どんなことをしているか興味のある方、お茶だけでも飲みに行ってみるかという方、どなたでも構いません。一緒にだんだんと盛り上げていきませんか？毎月第二金曜日と第四月曜日の十九時半、二部公民館でお待ちしております。



森のようちえん「michikusa」の紹介

代表 新妻 敬久

初めまして。森のようちえん「michikusa」です。森のようちえんとは、北欧が始まりと言われている自然の中での活動を主とする幼児教育の場です。「michikusa」は鳥取県西部の豊かな自然の中、大山や二部地区での活動を主として保育をさせていただいています。特に二部地区では、福岡で川遊びや泥遊び、畑で畑作りなど、地域の方々の暖かいご協力の中でのびのびと遊ばせていただいております。

また、今年四月より拠点を二部公民館前に移したことで地域の方との交流が一層増え、様々な体験をさせていただく機会も頂戴しました。先日は上代の田植えにも参加させていただき、子ども達にとっては今年二度目の田植えとなりました。晴天に恵まれた中、お祭りのように楽しい雰囲気での体験でした。風が通る見晴らしの良い田んぼで、遠くの山を指差しながら「あれは大山?」「二部から大山は見える?」など口々に言いながら賑やかに始まり、子ども達は青々とした苗を興味深そうに見たり触れたりしながら、どのように育つのか? お米(酒米)になるのはいつか? そんな風に想いを巡らせているようでした。手植えでの作業で、本物の苗を持ち、裸足で田んぼの中へ入って感じることの出来た体験はとても貴重な体験であったと思います。子ども達は、田んぼを見かけると「この苗は大きい」「こっちは小さいまま」「この前より大きくなってる」など、小さな変化に目を留めています。変わっていく苗の大きさや色を見ながら知らず知らずのうちに四季を体で感じ取っていく姿が想像でき、田植え体験をさせていただいたことをとてもありがたく思いました。参加しておられた方々との触れ合いも十分に楽しみ、子ども達にとつて学びの多い、とても良い時間でした。

この場を借りまして、二部地区活性化推進機構の皆様、上代の田植えにご参加された皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございます。



「野上川の風」に寄せて 区長 田中照夫 (三部二区)

人口減少や高齢化により、維持存続が危ぶまれる集落が増え、そして担い手不足等により従来の集落の枠組みでは取組みが出来ないことも拡大してきました。その一方で、集落の暮らしの安心を支えるコミュニティの維持・活性化が求められています。三部二区も例外ではありません。そこで三部二区では、集落の将来を見据え、身の回りの現状について意見交換を重ねて、次の方針に至りました。

一・全員参加のむらづくり。
二・大人も子どもも、みんなが楽しい明るいむらづくり。

三・健康で安全なむらづくりに取り組み、自主的な地域のコミュニティづくりの推進。この方針をもとに、集落の課題解決に向けた取組みや活性化への取組みの集落活性化計画を策定しました。

それと時期を同じくして、平成二十七年(2025)度コミュニティ助成事業の申請を平成二十六年九月九日付けで行い、今年四月七日に採択の通知を頂くことができました。また、集落活性化モデル事業の取組みを進めていましたので、今年度は二つの事業が採択となりました。

今回の事業の目的と期待される効果を紹介致します。

○事業目的

- ・自主的な地域コミュニティづくりの推進と充実
- ・人権コンサート、ふれあいの午後コンサートなどへの活動支援
- ・住民の暮らしの安心の確保

○事業効果

- ・各種備品等を整備することにより、集落が抱えている課題が解決するとともに、集落が担っている多様な役割や重要性が見直され、より一層のコミュニティ活動の発展が期待できる。
- ・集落における高齢化(七七歳以上四十名)の進展を見据えた生活しやすい環境が整備される。

最後に、今回この取組みが出来たのは、集落役員の協力と集落の皆さんのご理解を頂いたことが大きな力となりました。また、政府が昨春秋「地方創生本部」を発足させ、地方も独自の総合戦略の策定に取り組むという追い風の最中にあることも幸いとなっていると思います。



あとがき

今回の「野上川の風」は二部活性化化の上期の取組が主ですが、小学校が存続したことにより取組が始まった「だんだんプロジェクト」について紹介しています。二部活性化の起爆剤になればと期待しています。